

雨水浸透阻害行為に関する計画説明書

工事の計画の方針	雨水浸透阻害行為の区域に含まれる地域の名称		区 番地 ほか 筆				
	事業の種類		<input checked="" type="checkbox"/> 開発行為 <input type="checkbox"/> 建築行為で開発行為に該当しないもの <input type="checkbox"/> その他				
	雨水浸透阻害行為面積		5000.00 m ²				
<p>(雨水浸透阻害行為の内容)</p> <p>Ex. 現況が畑と資材置き場の土地に、帰属道路及び帰属公園を設置し、共同住宅を建築する。</p> <p>(設置する排水施設について)</p> <p>Ex. 宅地内及び公園内にU字溝を設置、道路には雨水本管を設置する。</p> <p>(対策工事の内容)</p> <p>Ex. 集水区域の雨水は、公園の地下に設置する雨水貯留施設に貯留し、オリフィスを経て放流する。 やむを得ず宅地の一部については直接放流となる。</p> <p>(流末について)</p> <p>Ex. 雨水貯留施設に集水された雨水は、市道 線内の雨水本管に自然流下で排水する。</p>							
土地の現況及び土地利用計画の内容		宅地等	舗装された土地	ゴルフ場、運動場	締め固められた土地	その他の土地	計
	全区域の現況土地利用	m ²	m ²	m ²	1500.00 m ²	3500.00 m ²	5000.00 m ²
	集水区域の土地利用計画	4490.00 m ²	10.00 m ²	m ²	200.00 m ²	100.00 m ²	4800.00 m ²
	直接放流区域の土地利用計画	200.00 m ²	m ²	m ²	m ²	m ²	200.00 m ²
	全区域の行為前流出係数		0.290		全区域の行為前放流量 (全区域の許容放流量 Q1)		0.04672 m ³ /s
	集水区域の行為後流出係数		0.834		集水区域の行為後放流量		0.12899 m ³ /s
	直接放流区域の行為後流出係数		0.9		直接放流区域の行為後放流量 (Q2)		0.00580 m ³ /s
	集水区域の許容放流量 (Qmax=Q1 - Q2)				0.04092 m ³ /s		
対策工事の内容	貯留	オリフィス径	0.125 m		ポンプ流量	_____ m ³ /s	
		基準降雨時水深	1.582 m		基準降雨時貯留量	158.20 m ³	
		最大水深 (基準降雨時)	2.000 m		最大貯留量 (基準降雨時)	200.00 m ³	
	浸透	浸透施設能力				_____ m ³ /s	
	最大放流量 (Qmax)				0.04018 m ³ /s		
備考	<p>直接放流分を考慮し、行為前流出係数を 0.290 → 0.264 に補正して計算をおこなった。</p> <p>補正流出係数 = (360 × 集水区域の許容放流量) ÷ (集水区域面積 × 116)</p> <p>この例における貯留槽の形状は、面積 100 m²の直方体とした。</p>						